

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(細谷地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成26年度 第6回
まちづくり懇談会《細谷地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《細谷地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成26年9月30日（火）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 細谷地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 70人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，北市民活動センター所長，道路保全課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

細谷地域まちづくり協議会・細谷地区自治会連合会会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	スクールゾーン内市道872号線の危険箇所改修工事願いについて	土木管理課 道路建設課 道路保全課 学校健康課
2	地域の実情に合わせた地域防災力強化への支援について	危機管理課 みんなでまちづくり課 消防本部予防課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ		
都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために		
(1) 機能的で魅力のある都市空間を形成する		
(2) 円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する		
No.	意 見	所 管 課
1	スマートICの整備について	土木管理課

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	北生涯学習センター（北市民活動センター）の改築工事について	みんなでまちづくり課 生涯学習課
2	地域住民の安全な歩道と自転車道の確保について	土木管理課 道路保全課 河川課
3	市道 1160 号線の道路改良工事の進捗状況について	道路建設課
4	道路の修繕について	道路保全課
5	ねんりんピックの新種目登録について	高齢福祉課
6	地域の実情に合わせた地域防災力強化への支援について（2）	危機管理課
7	宇都宮のPRについて	広報広聴課 政策審議室 観光交流課
8	新川の溢水対策について	河川課

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 荒木 英知 氏

(7) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	スクールゾーン内市道 872 号線の危険箇所改修工事願いについて
-----	----------------------------------

私達地域住民は通学路における児童の安全確保を図るため、登下校の時間帯に合わせ交代で立哨を行っている。市道 872 号線のこぶし公園西側道路(幅員約 7 メートル・片側 1 車線歩道付)はこぶし公園横を南に直進すると、その先の 50 メートル程が交通規制、午前 7 時から 9 時まで進入禁止となっているがこの部分が極端に狭くなり、交通規制を守らないドライバーの車両が通過するたびに児童が宅地や石塀をすれすれに歩いて登校している。子ども達はもとより、地域住民もヒヤヒヤ・ドキドキが 1 日中続き、交通事故とも紙一重の状況である。

昨年は近くで南進車両による死亡事故も発生している危険箇所である。ここ数年は国本地区方面から当該危険箇所を通過する車両が増え、以前にも増して児童のみならず、歩行者への危険が増大をしており、我々上戸祭 4 丁目自治会の定期総会でも毎年話題に上り、最重要課題としている。

については、交通規制による通学路の安全確保ではなく、市道 872 号線の当該危険箇所の幅員を広げる改修工事を早期に着工していただき、極狭道路危険箇所の解消をお願いする。

回答	所管課：土木管理課，道路建設課，道路保全課，学校健康課
----	-----------------------------

【市長】

大変道路が狭く、車の通行量も多くなってしまったことから、平成 25 年度の通学路の合同点検を行った際に細谷小学校から御指摘があり、市へも相談があった。

市としては、先ず学校において児童への交通安全の指導をしていただいた。そして飛び出し注意の看板を設置したり、停止指導線の路面標示を行った。また、地元の方々が不安を感じているのでスピード規制や取り締まりをやっていただけるように現在、警察に相談をしている。

道路の拡幅について、狭い道路なので道路を拡幅するには土地を寄付していただくことになる。また、両側の境界確定を行わなければならない。この道路については私も必要と思っているので寄附または境界の確認作業など地元の方々に協力していただきたいと思うのでよろしく願います。

■地域代表意見 2 (要旨)

テーマ	地域の実情に合わせた地域防災力強化への支援について
-----	---------------------------

2011 年 3 月に発生した東日本大地震・長野県北部地震の被災地視察を契機に行政だけに頼るのではなく、自分達のまちは自分達で守ろうとの機運が高まった。宇都宮市 39 地区のトップを切って、行政主導による防災組織ではない住民の発意による住民主

体の防災組織「細谷地域災害対策（支援）本部」を細谷地域まちづくり協議会（30 構成団体）内に結成して、「災害ボランティア養成講座」や「避難誘導訓練・避難所開設訓練等を取り入れた防災訓練」を開催している。今年も 10 月 26 日に上戸祭小学校で開催する予定である。

今年度、細谷・上戸祭両小学校へ地域備蓄品倉庫の建設と共に備蓄品を毎年定期的に購入することになっており、更なる細谷地域防災力の強化を図る事が出来るものと思っている。（倉庫の建設費は寄附金の 100 万円を充てる）

さて、昨年、細谷小学校を備蓄避難所として備蓄品を納入していただいたが、その数量が 50 人分と非常に少なく、宇都宮市地域防災計画の災害時の被害予測とその対策とは整合性のないものになっている。

また、まちづくり協議会等への宇都宮市補助金は地域の実績（人口・世帯数・地域面積・学校数等）ではなく、一部を除いて市内 39 地区一律となっている。

細谷地区の人口・世帯数・自治会員数が半分以下の地区と同額であるのが現実である。細谷地区は旧市街 25 地区の中で面積は石井地区に次いで 2 番目の面積を有しており、人口・世帯数は宝木地区に次いで 2 番目、小学校も 2 校あり、地域の課題解決の事業費にも影響が生じて地域の発展・活性化に阻害と閉塞感が生じてしまっている。

そのようなことから、地域の実情に合わせた補助金額の見直しと備蓄避難所を上戸祭小学校にも指定していただき、併せて備蓄品の数量も細谷地区の人口・世帯数等に見合う量を納入していただきたく願います。

回 答	所管課：危機管理課，みんなでまちづくり課，消防本部予防課
------------	-------------------------------------

【市長】

本市では地域防災計画を作成し、災害時の体制を整備しており、自衛隊、警察、消防などのスペシャリストを構成メンバーとする国・県・市災害対策連絡協議会において、定期的に会議を行うなどしている。また、災害が起こった時のことを考え、災害発生時に避難所へ必要な物資を迅速に届けられるよう、市内 15 か所に防災備蓄庫を配備している。

また、平成 25 年 10 月に新たな地域防災活動拠点として、市内 39 地区の自治防災会ごとに備蓄避難所を整備し、細谷地区においては細谷小学校を指定した。備蓄避難所は災害時において職員が到着するまでの間、自主防災会を中心とした地域の協力のもと、一時的、緊急的に被災者を受け入れていただくものであるため、当初必要となる毛布や水等の物資について 50 人分を配備したものであり、その後、必要に応じて、15 か所の防災備蓄庫から非常食、生活必需品など水も含めて搬入をすることになっている。つまり、備蓄避難所には 50 人分の物資を配備しているが、避難所運営が長引く場合は、数時間も数日も放っておくのではなく、直ぐに備蓄庫から物資を補給が出来る体制を取っている。水については、50 人分を置いているが、長期間避難をする場合を考え、上下水道局にタンク車を配備しているので、御理解いただきたいと思う。

また、備蓄避難所の整備について、地域の実情に応じて拡充を図っていく必要があ

るものと考えている。先日、各地区の自主防災会へ備蓄避難所を拡充した場合に対応できるかということを含めた意向調査を実施した。細谷地区も含めて、拡充について調整していきたいと思う。

また、補助金について、市民協働の地域づくりを推進することを目的とした協働の地域づくり支援事業補助金を交付し、その中のメニューとして地域づくり、地域環境、防犯、地域むらづくりなどの活動費を補助金のメニューとして用意している。

メニューは全地区一律の地域防犯活動、世帯数に応じて加算を設けている地域環境活動(リサイクル)、事業の実施により交付をしている地域むらづくり活動などがある。

この補助制度も最初は一括だったが、使いやすくするためにメニュー間を自由に流用できるよう柔軟な制度にして欲しいとの意見もあり現行の内容となっているが、数年経っているのでその点検も一度したほうがいいのではないかと思う。

主体である宇都宮市地域まちづくりの推進協議会の意向を伺いながら、その中で各地区の現状や意見を聞かせていただき、より良い制度に変えていきたいと思うので、その時に様々な御意見をいただきたいと思う。

もちろん、協議会へは我々から細谷地区からいただいた御意見を伝えたいと思う。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために (1) 機能的で魅力のある都市空間を形成する (2) 円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する
-----	---

宇都宮市第5次総合計画とは宇都宮のまちづくりの羅針盤となるものである。

(1)機能的で魅力のある都市空間を形成する

人口減少、超高齢社会を迎える中で、100年先を見据えて宇都宮市が持続的に発展していくためには、都市機能や拠点性の向上が求められている。市内の地域がその特性に応じた個性や魅力、都市機能を備えてコンパクトで調和のとれた都市空間が形成されている、こういうあるべき姿を目標として設定した。

目標達成のための主な事業は、「JR宇都宮駅周辺地区の整備」、「市街地再開発事業の推進」、「魅力ある都市景観づくり事業の推進」などである。計画を着実に進めるための主な施策目標は「市街化区域の宅地率の増加」などである。

(2)円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する

超高齢社会、環境問題への対応などから、過度に自動車に依存せず、調和のとれた交通環境への社会的な要請が高まっており、総合的な交通体系の構築によって公共交

通や自動車、自転車などのあらゆる交通手段が相互に連携した円滑で利便性が高い、安全で人や環境にも優しい誰もが利用しやすい交通環境がつけられているというあるべき姿を目標とした。

目標達成のための主な事業は、「LRTの導入」や「地域内交通の充実」、「産業道路などの幹線道路や大谷周辺のスマートインターチェンジの整備」などである。計画を着実にするための主な施策目標は「一日あたりの公共交通利用者数」の増加などである。

もう少し細かく細谷地区についてお話を申し上げたいと思う。

「都市空間形成」について、人口減少、少子超高齢社会に対応するために子どもから高齢者まで安心して便利に暮らせる魅力あるまちとして発展していけるよう、将来の目指すべき都市の姿としてネットワーク型コンパクトシティをかかげ、長期的なまちづくりの基盤となるビジョンの作成に向け、現在39地区に対して意見交換の場を設け、必要な機能あるいは具体的な施策について様々な御意見をいただいている。

このネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョンにおいて、細谷地域をはじめ、昭和・東・錦地域など内環状線付近の地域については、都市拠点である中心部と隣り合い、強い影響を受けることから行政機関や居住・医療など様々な施設が集まる地域、鉄道、バスなどの公共交通が充実した便利な地域として「都市拠点圏域」に位置づけた。

現在、地域内及びその周辺には小学校や中学校など文教施設やとちぎ福祉プラザなどの福祉施設、国立病院機構栃木医療センターなどの医療施設及び大型店舗などの商業施設が立地していることから、県内外からの多様な人々の流入につながり、拠点性を高めるという好循環を生んでいると考えられる。さらに、市立西が岡保育園の民営化に伴う地区内への定員120名から140名への増員も合わせた移設整備が平成27年4月の供用開始に向けて社会福祉法人によって進められている。

また憩いの場となる公園の整備においては、松ヶ丘児童公園、上戸祭2号児童公園の遊具の改築更新などを進めている。

次に「総合的な交通体系の確立」について、細谷地区は1日あたり約600本のバス路線がある。これは1日当たり2,000本が走っている大通りのバス往来の3分の1に該当することから、細谷地区は他地区と比較しても公共交通が充実している地域と言えると思う。また、日光街道に駐輪場やバス停の上屋やベンチを関東自動車と県で整備しており、これらにより公共交通へのアクセス性や利便性の向上が図られている。

一方、細谷地区を含む市街地部において、一部、公共交通空白・不便地域が存在している。地域から新たな生活交通への要望が出ていることから、今年度、既存の公共交通等の役割分担や地域特性等を踏まえた新たな生活交通のあり方について、調査・検討を行っている。検討にあたり、今月16日に北ブロックの地域まちづくり組織や連合自治会の代表者へのヒアリング調査を実施し、10月からは細谷地区を含む市街地の25地区を対象に住民アンケート調査を実施し、課題を整理するとともに潜在需要等の

把握に努めていく。11月には社会福祉協議会や老人クラブ代表者へのヒアリングを行う予定である。その検討結果を踏まえ、地域に適した新たな生活交通の運行形態、運営規模等を明らかにして、今年度末には導入の基本方針、そして基準等を示した導入ガイドラインを作成していく。

細谷地区周辺はバス路線の系統が充実し、運行本数が多いことに加えて、沿道には商業施設も多い状況にある。そのため、自転車関連の取組としては自転車と公共交通機関の連携策の一つである民間施設の既存駐輪場を活用したサイクルアンドバスライドの整備を検討している。これまでも市の補助金を活用し、関東自動車による細谷車庫の駐輪場の拡充や栃木県による細谷新道口の駐輪場の新設など整備が進められている。

JR宇都宮駅西口に宮サイクルステーションがあるが、そこから細谷地区内を通り、新里街道を經由してろまんちっく村を回るルートやろまんちっく村から梵天の湯を回る温泉周回ルートなどを設定し、自転車マップで紹介している。ほかにも隣接する国本地域のコンビニエンスストアなどを自転車の駅としてサービスを展開している。

宇都宮市の人口は住民基本台帳では、平成22年3月から26年3月の4年間で504,999人から519,347人へ14,348人増えている。細谷地区は同じ4年間で人口が823人増え、地区の人口は17,838人になっている。これは地域内人口が減っている地区がある中で全体の人口増加分の約1割弱、6%に該当している。このことから、細谷地区は魅力的な地域が形成されているから若い世代の方に選ばれている地域であることがわかると思う。今後、高齢世代と若い世代がお互いに調和を図りながら他地区を牽引していただく役割を期待している。

発言 1 スマートICの整備について

総合計画主要事業の中にスマートICの整備、新たなスマートICの設置とある。大谷周辺という話は先程伺ったが、開通時期の具体的な目標があれば説明をお願いします。

回答 所管課：土木管理課

【市長】

宇都宮ICと鹿沼ICの距離が通常のICの区間より長いということから、宇都宮の中心市街地にダイレクトに入るには両ICの中間地点あたりが良いだろうということで県と検討、協議をしてきた。

このたび、国と調整し、大谷近辺にスマートICをつくれれば宇都宮中心市街地にダイレクトに入ることが出来るとともに、大谷の観光増加や交通の利便性の効果が見込めるということで整備方針を決めたところである。具体的なスケジュールは調整中であり、地元説明会や土地買収を経て工事着工に入と思う。2020年にはオリンピック、2022年には栃木国体が開催されるのでそれらを意識してつくっていききたいと思う。

■自由討議（要旨）

発言 1	北生涯学習センター（北市民活動センター）の改築工事について
-------------	--------------------------------------

一人暮らしの高齢者ふれあい会食事業をやっている。細谷地区のふれあい会食事業は昭和63年の4月1日から開催しており、今年度で27年目になる。北市民活動センターの1階で調理をして2階の大講義室で事業を行っている。今回要望する点は細谷地区社協の先輩達がずっと願っていたことである。

地域の生涯学習の拠点として多くの老若男女の方々が、北生涯学習センター・北市民活動センターを利用している。細谷地区社会福祉協議会も毎月第2火曜日に「ひとり暮らしの高齢者ふれあい会食事業」を開催している。年齢は60歳代から95歳までの方々が参加をされているが、高齢になるにつれ、階段がきついからと参加できなくなっている方々が増えてきている。参加したいのに参加出来ないのは淋しいことである。また申し訳ないと思っている。エレベーターやエスカレーターがあれば参加していただけるのにとふと考えてしまう。

については、北生涯学習センター・北市民活動センターを郊外の地区市民センターのようにバリアフリー化した施設に改築していただき、赤ちゃんからお年寄り、ハンディキャップを持つ方々全ての市民が笑顔で健康で生き生きと暮らせる心の触れ合う「福祉のまちうつのみや」にさせていただくようお願いする。

また、改築が叶わないとすれば、エレベーターもしくは既存の階段にエスカレーターを早期に設置していただくようお願いする。

回答	所管課：みんなでまちづくり課，生涯学習課
-----------	-----------------------------

【市長】

ふれあい給食会事業を行っていただき、お礼申し上げます。また、準備などにもお骨折りいただきありがとうございます。

北市民活動センターについては他の利用者の方々からもそうした話をいただいている。北市民活動センターだけではなく、各市民活動センターや地域コミュニティセンターにおいても2階に特に厨房があるセンターは本当に不便で何とかエレベーターを設置してほしいという要望をいただいている。市の現状としては、コミュニティセンターがない地域について、今年コミュニティセンターを建設し、全ての地域にコミュニティセンターが設置されたが、もうすでに古くなり建て替えが必要なセンターがある状況である。優先順位を決めて計画的に進めていくが、現在、北市民活動センターについて、改築の予定はなく、また、エレベーターを付けることは大きな工事と多額の予算が必要になるので、当面は高齢者の方がお越しになった場合、市の職員が介助するので声を掛けていただきたい。

また、多くの高齢者の方が集まる場合には、何とか調整をして1階を使えるようにしていきたいと思う。1階を使える環境になれば1階の改築なども考えることが出来

と思う。市としては、高齢者の方が1階を使える環境にしていきたいと思うので御不便をお掛けするがよろしくお願ひしたい。

発言 2 地域住民の安全な歩道と自転車道の確保について

新里街道から市営宝木団地へ通じる道は住宅が増え、徒歩や自転車に乗って買い物をする方々が日々増えるとともに、老人やベビーカーなども通るので、歩道を行き交う際にすれ違ふことが出来ず、いったん車道に出てすれ違ふありさまである。買い物は生活に直結する毎日の営みなので安全でありたいと願っている。道路の南側に新川の用水路があり、一部、コンクリート製の蓋をして歩道の確保をしてあるが全面に蓋をして両側の歩道を歩けるようにしていただけると通行も楽になるかと思う。

回答 所管課：土木管理課，道路保全課，河川課

【市長】

住宅、団地あるいは大型商業施設が進出をしている生活の場としては利用頻度が高い、生活に欠かせない道路であり、1.5メートルの歩道を含めた幅員は約8メートルである。そこで新川に蓋をしてそこを歩道にすればよいのではないかということだが、新川は御存知の通り上流も下流も大雨やゲリラ豪雨時には溢水をしてしまい御迷惑をお掛けしている状況である。溢水を軽減するうえでも新川に蓋をすると水の逃げ道がなくなり溢れた水が住宅地などに押し寄せてしまうので原則、河川に蓋をすることは難しい状況である。

溢水対策として浚渫を定期的に行っている状況であることをご理解いただきたい。

現在、新川の一部にコンクリートの蓋をしているが、これは横断歩道の歩行者のたまり場として設置をしたものである。川の全面に蓋をしてしまうと溢水被害が全地域に広がってしまうので蓋が出来ないことを御理解いただきたい。

発言 3 市道 1160 号線の道路改良工事の進捗状況について

戸祭台通りと県道下岡本上戸祭線が交わる丁字路交差点（田代耳鼻咽喉科前交差点）は十字路交差点に改良される計画があるそうだが、これに伴う市道 1160 号線改良工事の進捗状況とそのルート、当該丁字路交差点の改良工事の時期も教えてほしい。

回答 所管課：道路建設課

【市長】

市道1160号線は大変道幅が狭いにもかかわらず、通学路となっており、また、交通も頻繁にあることから、地元の方々からも様々な要望をいただいていた。

細谷地区の幹線市道としての位置づけで平成19年度から事業を進めており、ルートについて、宇都宮北道路及び宇都宮環状線の交差点から南進し、上戸祭小学校東側入口付近までの現道を拡幅し、そこから長岡街道の田代耳鼻咽喉科の丁字路交差点まで

は新設により整備する。本路線の全体計画延長は720メートル、計画幅員は12メートル（一部11メートル）であり、片側一車線の車道の両側には歩道を設置する。そうすることで円滑な交通、歩行者の安全を保つための整備をしていきたいと思う。

現在、用地取得を行っており、平成28年から工事を開始していきたいと思う。

また、田代耳鼻咽喉科前の丁字路交差点における十字路交差点にする改良工事については、用地取得後すぐに着手をしていきたいと考えている。地権者の方々に様々な御協力をお願いをしているところであり、地域の皆様の御理解をいただきながら進めていきたいと思うので工事完了まで御協力をいただきたいと思う。

発言 4 道路の修繕について

自転車の道路を一部整備することになっているが、コミュニティセンターの裏側の道路は約3年前にコミュニティセンターが出来た時、おそらく敬老会に市長が来るといふことで大至急きれいに整備された。

しかし、その突き当たりを左に曲がった通学路の道路はでこぼこしている。道路部署ではこうした工事について確認をしたのか。業者の単純な設計が道路をガタガタにしまい、検査をせず、業者が造ったものを見ただけで「これで結構です」としているのである。自転車に乗っていると、自分のような高齢者は自転車を降りて押して行かなければならない道路が多い。それを道路部門の課長はどう考えているのか、どのようにしているのかをお尋ねしたい。

道路工事が終わった後、1か月も経つと路面が沈んでしまう。これは工事をする人の転圧、完成検査の際の検査方法に問題があるのではないか。宇都宮が一番穴の開いている道路が多いと思うということは誠に残念である。検討をよろしくお願ひしたい。

回答 所管課：道路保全課

【道路保全課長】

宇都宮市の認定市道は約2,900キロメートルある。そのほかに認定外道路があり、我々が毎日道路パトロールをして、傷んだ個所については、補修をしながら走行性を良くして皆様が快適に使っていただけるように心がけている。

道路の舗装工事を行った直後はきれいな状況で気持ち良く使っているが永久的なものではないのでどうしても経年により傷んでしまう。皆様から通報などをいただくことにより、いち早く修繕などをしていきたいと思っている。

御指摘の場所について懇談会後に確認をさせていただき、直ぐに調査をして担当者からお伺いさせていただきたいと思う。

【後日対応】

発言者と現地立会い

・舗装工事完了後1か月で道路に沈下やひび割れが生じてしまった（十年以上前に舗装を

行ったとのこと)。転圧を十分に行っていないのではないか。工事の管理および完成検査を適切に行ってほしい。

発言者へ回答

- ・指摘の場所の舗装面の沈下やひび割れは、転圧不足などではなく、経年により生じたものと考えられる。引続き、工事の管理および完成検査を適切に行っていく。
- ・また、本路線の修繕については、自治会から他の道路についても修繕の要望もあることから、今後、どの道路を修繕するか自治会と協議、調整し優先順位等を決定したうえで進めていきたい。

発言 5 ねんりんピックの新種目登録について

タックルボールという新しいスポーツを考えた。これをねんりんピックの競技種目にさせたいと努力をしているが、市長の支援が必要なものだと思う。ねんりんピックが終了したら関係部署に伺い、要望をしていくのでよろしく願います。

以前、総合政策部にまず話を持っていった。しかし、対応した職員が「はい、わかりました」で終わってしまうので、是非ともこういう話を少なくとも係長には繋いで欲しいと思う。

回答 所管課：高齢福祉課

【市長】

素晴らしい御意見をいただいた。後半部分についてはお詫びを申し上げたいと思うが、来月 10 月 4 日からねんりんピック栃木が開催される。競技者だけで全国から 1 万人がお越しになる 60 歳以上の方々のスポーツと福祉の祭典になる。

宇都宮でも弓道、インディアカ、サッカー、太極拳、健康マージャン 5 つの競技が開催される。

タックルボールについて、ねんりんピックが終了後、御連絡をいただければ出来ることはさせていただきたいと思う。宇都宮の一市長が協会にお願いをしてどうなるかわからないが、やるだけはやろうと思うので前回とは違うしっかりとした対応をするのでよろしく願います。

発言 6 地域の実情に合わせた地域防災力強化への支援について (2)

地域代表意見について話をさせていただいた。市長からの回答がいい返事だったのかそうではないのかちょっとわからないのだが、その中には平成 26 年度の予算がついているものがある。地域防災計画の中での備蓄避難所拡充については平成 26 年度予算が付いているという話を聞いている。出来れば、その辺について具体的に、もし細谷地

域の備蓄避難所として上戸祭小学校を認定していただけるのであればいつ頃納入していただけるかというところまで今日は返事をいただけるような話を危機管理課の方からいただいていたのだが、残念ながらそこまでの回答をいただけなかった。今ここではなく、後で地域に改めて、具体的に予算が付いているものなので連絡いただければ幸いである。

特に上戸祭小学校地区の方々にとっては、避難所になった時にすぐに細谷小学校に行けばよいのだが、日光街道を渡って行かなければならないのでちょっと無理かということもある。

参 考	所管課：危機管理課
------------	------------------

発 言 7	宇都宮のPRについて
--------------	-------------------

「住めば愉快だ宇都宮」ということで、宇都宮の実力は全国1位や全国2位など素晴らしい数字が出ているのに宇都宮は認知度が低いのではないかと思う。栃木県はよく全国で下から3番目とテレビでやっているが、宇都宮のPRが足りないのではないかと思う。

回 答	所管課：広報広聴課，政策審議室，観光交流課
------------	------------------------------

【市長】

選ばれるまち、企業が進出するまちというの知られていないと全く意味がないのであり、「実力は兼ね備えているが印象が薄い」、それが栃木県だと言われている。

47都道府県の中で栃木と群馬と茨城の関東3県が最下位争いをしている状況であるが、栃木県も懸命にPRをしており、実力通りの知名度を得ようということ知事も大変苦勞されているが市もその構成員なので宇都宮の実力をしっかりと全国に発信をしていくためにブランド戦略を行っている。

「ミヤリー」を使ったり、「住めば愉快だ宇都宮」のロゴマーク、キャッチフレーズを使ったりしている。「杜の都仙台」「北の大地北海道」というキャッチフレーズを耳にしたことがあると思うが、「餃子のまち宇都宮」だけではなく、「住めば愉快だ宇都宮」の「住めば」の部分を変えて、ホテル業界では「泊れば愉快だ宇都宮」や飲食関係では「飲めば愉快だ宇都宮」など様々なものに使っていただいている。まずは市民の皆様がそうした取組をしているということが理解されないと全国に発信する力にならないので、ブランドメッセージを上手く活用しながらこれからも進めていきたいと考えている。

また、「住めば愉快だ宇都宮」の実力となる、住み良さなどについて手を抜くことなく、また、新たな宇都宮の魅力もつくっていききたいと思う。最終的には宇都宮が選ばれ、都市間競争で生き残るまちをつくっていききたい。是非御協力をよろしくお願いする。

発言 8 新川の溢水対策について

何回か市へお願いに行っているが、新川について、宝木中学校の辺りが大水になる。今年は幸いにして雨が降らないが、以前、何回も河川課へ行き、河川課長に「川の中の掃除をして欲しい。河川の中は草ぼうぼうです。」と要望している。

今年は雨が降らないので大水にはならなかったが雨が降るとあの辺りは水びたしになってしまう。土嚢が左右に積んである。擁壁を片方だけかさ上げしてほしいと言ったところ、両方をかさ上げしなければならないということだった。河川課、道路部門の課長にはよく下見をしてもらいたい。この川の上流は二宮金次郎がつくったものなので市としても検討してもらいたい。かさ上げをすれば土嚢も必要無くなるのではないかと思う。

回答 所管課：河川課

【市長】

河川の改修による溢水の被害防止であるが、奈坪川など様々な所でこうした現象が起きている。今までの都市基盤整備が通用しなくなってしまった。異常気象のせいかもしれないが、根本的な解決は河川の改修である。河川の改修は下流から行うのが原則であり、上流を先に改修してしまうと下流で水を受けきれなくなり、下流で被害が発生してしまう。なおかつ新川は川の延長が長いので、細谷地域を改修するまでには相当時間がかかってしまう。まずは出来ることをすることで溢水する場所に調整池を作ったり、浸透柵を設置したり、浚渫作業や繁茂した草木の伐採をすることで大分変わってくるので、明日にでも現地へ河川課を行かせて対応していきたいと思うので立ち会っていただき、説明を直接いただきたいと思う。

【後日対応】

発言者に新川溢水危険箇所（2か所）の対策状況を説明

- ①宝木中学校北側・・・護岸のコンクリート嵩上実施（平成21年度）
- ②新里街道東側・・・右岸の護岸整備にあわせ、既設護岸の嵩上検討
当面は土のう積みにより溢水被害を軽減

- ・新川筋の除草業務は8月中旬に実施
- ・溢水危険箇所2か所の土のうを更新